

平成26年度
県外先進校視察

(報 告)

期 日 平成26年10月31日(金)
視察校 広島県立広島高等学校
広島県立広島工業高等学校

期 日 平成26年11月 6日(木)
視察校 岡山県立岡山芳泉高等学校

広島県立広島高等学校

■日 時：平成26年10月31日（金） 11:00～12:00

■対応者：校長 榊原 恒雄、教頭 松原真奈美

■広島県立広島高等学校の概要

- 人口約18万人の東広島市に、県立広島中学校を併設する併設型中高一貫教育校として平成16年度に新設（中学校・高校ともに新設、広島県のリーディングスクールとしての使命）
- 中学校の入学定員は160人、高校の入学定員は240人（併設中学校からの進学者含む）
- 学校の使命は「全人教育を実現し、広島県教育を先導する学校」、校訓は「高い知性」「豊かな感性」「強い意志」 → 特に「感性」の育成を重視
- 教育の特色は、「グローバル化に対応した教育」「寄宿舎の活用」「資格検定取得の推進」
- 県民からの期待も大きく、進学目標は難関国立大学等合格者数90名以上（広島大学40名、最難関大学10名含む）

■グローバル化時代に活躍できる人材の育成について

- 広島県は全ての高等学校が姉妹校をもっており、広島高校では高校2年生がハワイに修学旅行に行くことから、ハワイのル・ジャルダン・アカデミーと姉妹校提携
- 中学生・高校生の希望者の中から40人を対象として、カナダで語学研修を実施
- 広島大学が近くにあり、広島大学の留学生が頻繁に来校することによる交流を実施
- 中学校3年間で英検3級を全員が取得
- 自国の文化を語れることが重要であることから、伝統文化の継承を重視
→ 能舞台等の鑑賞、中学校音楽における琴・三味線・太鼓や茶道、高校体育における弓道の学習を実施
- 中学校での学校設定教科「ことば科」と、英語の中のロジカルコミュニケーションを中心として論理的思考力を育成

■「ことば科」の学習について

- 全ての教科のベースは「ことば」であることから、中学校において学校設定教科「ことば科」を開設
→ 文科省の教育課程特例校の指定あり
- 中学校2年生では日本語によるディベート、3年生では英語によるディベートを実施
→ 昨年度は、ディベートの全国大会で準優勝
→ 論理的思考力が育成されたことにより、法学部への進学者が増加
- 高等学校においても、中学校での「ことば科」の学習をベースとして「総合的な学習の時間」に探究基礎、課題別研究、卒業研究を実施
→ 生徒全員が自分の進路に関係のあるテーマで研究を実施、広大の教員にサポートを依頼



■進学に向けての取組について

- 生徒が行きたい大学に行ける指導の強化
→ 担任面談に加え教科面談も実施
→ 目標を焦点化するために、中学校段階から大学見学等を実施

- 進学の取組を強化しつつも、一般的な中学校や高校で実施している行事等は全て実施
→保護者に協力を仰ぎ、交響楽団をフルオーケストラで呼ぶなど+αの行事を重視
- 高校から入学する80人の生徒と併設中学校から進学する160人の生徒がお互いに刺激となり、高校段階での学力差は縮小する傾向

■寮の活用について

- 寮の収容人数は、常時入寮168人、短期入寮160人であり、現在の常時入寮は140人（中：60人、高：80人）。
→中1・中2は4人部屋、中3・高1は2人部屋、高2・高3は個室
→短期入寮は、生徒全員を学年単位や縦割り単位などで入寮させ、合宿等を行うことで自学自主の習慣付けや異学年交流を実施
- 広島大学の大学院生が「スクールサポーター」として入寮生に対し学習指導（午後8時～10時）を実施（每晚10名程度）
- 中学生を寮に入れることについては、ルールづくりをはじめ配慮が多く必要



■その他

- 部活動は積極的に活動させており、陸上等インターハイにも出場、文芸部は文部科学大臣賞を受賞
→日曜日は、試合以外の部活動は休み（月曜日への影響、寮生への配慮）
- 時間の管理を自分で行わせるためにノーチャイム方式を導入（校内放送も廃止）

■新設校としての成功の条件

- JRの高屋駅まで徒歩7分であり、交通環境の良さはメリットが大
→交通の利便性の悪いところに学校があると、保護者が進学を躊躇
- 敷地面積が7万㎡あり、広さに余裕があるので建物は全て3階建てである。何をすることにしても広いことはメリットが大
- 近隣に、広島大学、近畿大学、広島県教委の教育センターがあり密な連携が可能
→外部の協力が得られることは、教育活動の充実にとって重要な要素
- 地元の公立中学校と共存することにも配慮が必要
- 進学だけに重点を置く学校にするのではなく、子どもがやりたいことをさせることを通して忍耐力や協調性を養う教育を行うことが重要

広島県立広島工業高等学校

■日 時：平成26年10月31日（金） 14:00～15:30

■対応者：校長 和田 照文、教頭、進路主事、各学科主任

■広島県立広島工業高等学校の概要

- 明治30年に設立した伝統校であり、平成15年に広島県が農業・工業・商業の拠点校を整備した際に、広島県立福山工業高校とともに広島県の工業高校の拠点校として指定され、重点的に施設・設備を整備
- 設置学科は5学科（機械科（80人）、電気科（80人）、建築科（80人）、土木科（40人）、化学工学科（40人））、1学年8クラスの広島県内では最も規模の大きい高校
- 学校の使命としては、科学技術創造立国を支える豊かな心をもった工業人の育成、拠点校として工業教育の牽引的役割を果たす学校
- 進学・就職をめざす生徒それぞれに対応するため、選択科目として進学対応教科と専門教科を設定
- 卒業後の進路は、就職が約65%、進学が約35%であり、就職内定率は例年100%を達成
- 部活動も活発であり、生徒全員が部活動に所属

■工業高校の拠点校について

《工業教育のセンター的役割》

- 基礎から先端までの幅広い技術体験
→広島県内の工業高校の生徒・教員を対象として研修会を実施（ものづくりコンテスト等の大会出場に係るマイスター育成事業や、マイスターを講師とした教員対象の技術研修等）
- 小中学校へのキャリア教育サポート
→小中学校へ出向いての出前教室の実施、文化祭における小学生対象のものづくり教室
- 地域との連携（専門性を生かしたボランティア活動）
→老人ホームや施設での電気器具の清掃、中庭のタイル張り、本棚・机の製作・設置など
- 他の工業高校が、授業の一環として先進機器を活用するために実習に来た実績はなし（希望があれば歓迎）

《工業教育の技術・技能伝承の工夫》

- 教員の大量退職に備え、実習の質を確保するために学校内で教員用の実習指導書を作成
→各学科で様式を統一し、実習のノウハウをきめ細かく示すなど、使いやすいものとなるように工夫
- 各学科において、最先端の技術の習得を含め、マイスター等の講師を招いて計画的に教員研修を実施（他の工業高校にも案内・募集）

■その他

- 平成15年の先進機器の導入（3か年計画）に係る経費は約1億円程度（福山工業も同じ機械を導入）
→その後は機器更新は行っておらず、メンテナンスを実施
- 県内の工業の教員の中には同校の卒業生も多く、全県では卒業生が10人程度在籍
- 県外に就職した生徒は、近畿、関東、中京といった大都市に多く就職

■拠点校としての先進的な施設・設備

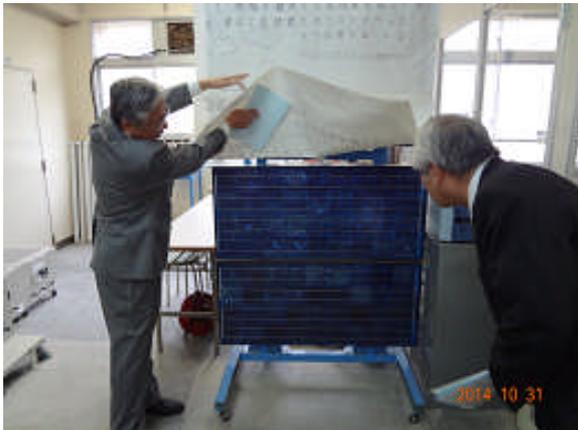
○ガスクロマトグラフ質量分析装置



○高電圧実験室



○太陽光パネル



○電力技術総合実験実習装置



○レーザー加工機



○旋盤



○3Dプリンター



○3次元レーザー測定器



岡山県立岡山芳泉高等学校

■日 時：平成26年11月6日（木） 13:00～14:00

■対応者：校長 豊岡 秀明、副校長 上林 栄一、教頭 高槻 信博

1 岡山県立岡山芳泉高等学校の概要

- 岡山市内4番目の普通科総合選抜校として昭和49年に誕生（今年創立41周年）
- 平成11年度 中学区制単独選抜に移行
- 平成14年度 進学重視型単位制の導入
- 岡山市南部の進学拠点校
- 県内有数の進学実績・部活動実績（高い次元の文武両道）
- 生徒数（定員）1,080名（岡山県内最大規模）、教職員数105名
- 50分×7限授業、2学期制
- 校訓は「鍛錬 節度 創造」
- 入学後に伸びる学校との評価

2 進学重視型単位制について

■志望する進路に応じた多彩な選択科目について

- 単位制高校では多数の科目を開講するが、岡山芳泉高校の場合は、興味関心で横に広げるのではなく、同じ国・数・英でも難易度を縦に広げた形で、普通科にふさわしい単位制にしていることが特徴
- 「芳泉プランニングブック」（進学重視型単位制の解説、シラバス等）を新入生に配布
- 生徒が選択に困らないようモデルパターンを例示
- 大学入試に必要な科目であれば希望者が少人数でも開講

■少人数指導について

- 1年7月までは国・数・英で少人数授業を実施（2クラス分の生徒を3クラスに再編成）
- 1年の夏休み以降は到達度別少人数授業（本人の希望による、定期考査ごとに入れ替え可能）

■課題研究について

- 火曜日と金曜日7限の放課後授業（希望者）
- 自分で課題を見つけテーマを決めて研究（推薦入試やAO入試にも有効）
（例）英語Boost：英語の表現力を養う。英検・TOEICをめざした指導も行っている。

3 進路指導等について

■進路状況

- 入学生のごほとんどが国公立大学への進学を希望（入学当初は多くの生徒が岡山大学への進学を希望）
- H26卒業生(316名)の約75%が4年制大学へ進学（そのうち約65%が国公立大学へ進学）
岡山大学へは毎年50～60名が進学、難関10大学+医歯薬学部は毎年30名前後
国公立大学現役合格者数、岡山大学への合格者数は県内トップクラス
- 面倒見の良さと切磋琢磨が伝統

■土曜日活用事業について（PTA事業）

- 土曜講座（60分×3限、1年次：国数英、2年次：国数英理、3年次：5教科）→月2回程度
- 教室開放→月2回程度

■校外学習合宿、校内集中自主学習について

- 校外学習合宿…夏休み中に実施、1, 2年希望者対象、自学自習が基本、2泊3日
- 校内集中自主学習…夏休み中に実施、部活動等で校外学習合宿に参加できない生徒や3年生が対象

■難関大学指導について

- ハイレベル模試（希望者）を1年次から実施
- 県内数校による合同学習合宿（2年次の11月に1泊2日で実施）
 - ・東大や京大をめざす生徒10名程度ずつを集め、数学・英語の学習
- 難関大卒業生と語る会（2年次の夏休み）
- 京大オープンキャンパスツアー（主に1年次生の希望者を対象）

■芳泉ゼミ

- 13の学問分野に分かれて、大学の入試科目や研究内容を調べるだけでなく、関連した分野から各自で課題を見つけ、研究・発表などの探究活動
- 主としてセルフプランニングタイム（総合的な学習の時間）の中で実施

4 その他（質問に対する回答等）

- 岡山市の公立進学校5校は、総合選抜をやめる際に序列化の懸念もあり、各校が単位制や中高一貫教育等の特色づくりに取り組んできた。
- 生徒の学校生活の時間帯
 - 8：35～16：15（50分7限）
 - 18：30完全下校（部活加入率は9割）
- マスコットキャラクターの活用（オープンスクール、学校祭、小学校への学習支援時に学校をPR）

平成26年10月31日(金)

広島県立広島高等学校

【普通科 1学年240人(含内進160人)】

〒739-2125 広島県東広島市高屋町中島31-7

広島県立広島工業高等学校

【工業科 1学年320人(機械80人,電気80人,建築80人,土木40人,化学工学40人)】

〒734-0001 広島県広島市南区出汐2丁目4番75号

【第2期県立高校将来構想検討協議会委員】

	氏名	役職名等
会長	古賀 和利	国立大学法人山口大学理事・副学長
委員	小川 二伸	山口県中学校長会会長 下関市立日新中学校長
委員	奥野 忠	山口県立山口農業高等学校長
委員	尾崎 龍彦	山口県町教育長会会長 田布施町教育委員会教育長
委員	品川 豊勝	山口県立萩商工高等学校長

【事務局同行者】

廣川 晋	山口県教育庁審議監
山崎 啓道	山口県教育庁高校教育課主査
河本 政之	山口県教育庁義務教育課主査
中野 聡	山口県教育庁高校教育課管理主事

平成26年11月6日(木)

岡山県立岡山芳泉高等学校

【普通科 1学年360人】

〒700-8527 岡山市南区当新田51-1

【第2期県立高校将来構想検討協議会委員】

	氏名	役職名等
会長	古賀 和利	国立大学法人山口大学理事・副学長
委員	倉田 伸治	山口県公立高等学校長会副会長 山口県立柳井高等学校長
委員	常森 慶子	海水化学工業株式会社マネージメントセクション経営企画室室長
委員	中磯 和子	山口県PTA連合会前副会長 山口県立高森高等学校PTA会長
委員	林 俊作	山口県PTA連合会会長 下関市日新中学校PTA会長

【事務局同行者】

村上 浩昭	山口県教育庁高校教育課主査(高校改革推進班)
梅田 憲和	山口県教育庁高校教育課指導主事(普通教育班)